

鹿児島の昆虫44

速報！鹿児島県初記録のトガリアメンボ

昆虫担当 金井賢一

10月6日、博物館フィールドワーカー養成講座として、伊佐市大口においてアメンボ調査を行いました。その際に鹿児島県初記録となるトガリアメンボを確認しましたので紹介します。

今年の昆虫班はアメンボを大きなテーマとして、活動してきました。現在まで鹿児島県内での正式な記録のないエサキアメンボなどを対象として、川内川河口、出水平野などで活動してきました。しかし夢見ていたような新記録の成果は上がりず、講座受講者はナミアメンボ、コセアカアメンボ、シマアメンボなどの同定はできるようになったものの、ちょっと物足りなさを感じていました。最後の講座となった当日、大口のとある池を見た



6月の調査風景

ところ、とても小さなアメンボが、水面に波紋を立てることなく浮いていました。これがトガリアメンボです。

本種は、インド、ニューギニアから台湾までの東南アジアに広くすむ種でしたが、2001年に兵庫県淡路島北部で国内において初めて確認されました。その後大阪、和歌山などで確認され、急速にその分布を広げている種類です。2012年現在、熊本県・大分県まで発見されていましたが、それよりも南の地域では見つかっていませんでした。



トガリアメンボ

今回の発見で、鹿児島県でも分布が広がっているのかを調べるという新しい目標が見つかりましたが、本種は卵で越冬するため、来年のシーズンに持ち越す宿題となりました。今後伊佐地区、始良地区などを調査しようと思います。

鹿児島の動物32

しのびよる外来生物

動物担当 山田島 崇文

みなさん、外来生物って何でしょうか。食用や鑑賞目的で川に放され、大きいものは1mあまりになるコイ（鯉）は、もともと日本固有の生き物ではなく、中国原産の外来生物です。現在は、物流の移動が活発です。中には、荷物にかくれてやってくるものもいます。そう、外来生物とは、理由はともあれ、ヒトの手によって入ってきた生物を指します。

数年前に指宿市と宮崎県日南市でキノボリトカゲが見つかり、大きな話題になりました。このトカゲは、もともと奄美大島など暖かい地域にすんでいます。自分で海を泳いで渡ってきたり、流木に乗ってきたりすることは考えにくいので、ヒトの活動によって移動し、繁殖したと考えられます。

そして今年、とうとう屋久島でもこのトカゲが見つかったという情報が入りました。そこで県立博物館では、7月22日、23日と9月13日に屋久島で聞き取り調査などを行いました。その結果、目視や画像で確認することが出来ました。残念ながら、実物の捕獲は出来ませんでした。



屋久島で撮影したキノボリトカゲ

今のところキノボリトカゲが、いつどのようにして屋久島に侵入したのかははっきり分かりません。博物館では、今後とも調査を続けたいと考えています。

屋久島に限らず、自然の中では、多くの生きものが食べたり食べられたり、すむ場所を分け合ったり、お互いに関わり合いながら生きています。こうしてバランスが保たれています。このバランスを保つためには、本来いなかった生きものは、いない方がよいと考えられます。ですから外来生物については、これ以上広がらないよう慎重に対応しなくてはならないのです。